

## 横浜港南本牧ふ頭 MC-3 コンテナターミナルへの第一船入港について

横浜港南本牧ふ頭地区 MC-3 コンテナターミナルは、国際コンテナ戦略港湾「京浜港」の中核となるコンテナターミナルです。そのため、世界最大級のコンテナ船にも対応できる国内唯一の大水深・高規格コンテナターミナル(水深18m)として整備を進めてきましたが、4月から供用開始となり、4月1日に横浜市及び横浜港埠頭株式会社主催により第一船入港記念セレモニーが開催されました。

当日は、関係者より来賓祝辞があったのち、横浜市 鈴木副市長から Oleksandr 船長に対して、記念品・花束の贈呈がありました。

### 【事業概要】横浜港南本牧ふ頭地区 MC-3 国際海上コンテナターミナル整備事業

事業期間：平成 19 年～平成 29 年(岸壁部分は平成 27 年完成)

事業主体：関東地方整備局、横浜港埠頭株式会社

事業内容：岸壁(耐震)(延長 400m)、荷さばき地、護岸

荷役機械(ガントリークレーン 4 基)、ターミナル建設

### 【4 月 1 日(水)入港船舶】

船名：ENSENADA EXPRESS(運航会社：Hapag-Lloyd)

諸元：全長 279m、幅 40m、総トン数 66,332GT、最大積載コンテナ数 5,896TEU

航路：AME(中米航路)

### 【MC-3 コンテナターミナル整備による効果】

#### ① 基幹航路に就航する船舶の大型化に対応できます

水深 18m の大水深岸壁とともに、24 列 9 段対応の大型ガントリークレーンを設置(いずれも我が国では初の採用)しており、世界最大級の 18,000TEU 積みのコンテナ船の入港にも対応できます。

これにより、欧米基幹航路の就航船舶が大型化する中で、我が国への欧米基幹航路の維持・拡大に向けた環境が整います。

#### ② 大規模地震災害発生後にも速やかに幹線物流機能が確保されます

東京湾の入口に近い南本牧ふ頭において、耐震化されたコンテナターミナルが整備されることにより、首都直下型地震等の大規模災害発生後にも速やかに我が国の経済活動や国民生活に必要な物流の復旧が可能となります。



MC-3 第一船入港状況



MC3 コンテナターミナル

南本牧ふ頭コンテナターミナル全景



横浜市副市長より記念品贈呈



第一船入港セレモニー集合写真